

## 1 単元 『故郷』を読んでキャストインタビューに答える

## 2 指導観

- 現代社会は、情報化、グローバル化が急速に進展している。インターネットをはじめ、さまざまなメディアを通じて情報のやりとりをすることができるようになったことから、我が国の言語に関わる環境は大きく変化している。「国語に関する世論調査」(平成29年度実施)では、「日本語を大切にしているか」という問いに対し、「大切にしていると思う」と「余り意識したことはないが、考えてみれば大切にしていると思う」を合わせた「大切にしている(計)」は64.9という結果が出ているが、平成27年度調査より14ポイント減少している。このことから、日常使用している言葉や表現に対する意識が低下していることや、言葉を大切にすることについての経験や実感が不足していると推察される。「故郷」は翻訳文学でありながら、国語の表現を学ぶ教材として長い歴史を積み重ねており、風景描写によって登場人物の心情を暗示したり、人物の描写によって作者の意図を伝えたりする表現が随所に見られる文学的文章である。「故郷」を読んでキャストインタビュー(映画やドラマなどの映像作品において、役者が配役を「どのように捉え、どのように演じるか」について答えたもの)に答える活動は、言葉や表現に対する意識の向上を図る上で意義深い。

本単元は、登場人物の設定の仕方やものの見方、考え方について分析することを通して、作者の意図をつかみ、自分の考えをもつことができることをねらいとしている。

学習内容としては、「故郷」における人物の生き方や描かれ方、時代や社会背景、表現の工夫などについて読みを深めることがある。「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」には、第3学年「思考力、判断力、表現力等」の「読むこと」の内容に、「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の考えをもつこと。」とある。「故郷」を読んで人物の描写やそこに現れている作者の意図をつかみ、それをキャストインタビューに答えるという形で表現することは、文章を読んで考えを広げたり深めたりする上で意義があると考えられる。

- 本学級の生徒は、中学校第1学年で場面の展開に着目して人物の変化を読み取る学習や、人物の行動や情景描写から心情を読み取る学習を行っている。また、中学校第2学年では時間の経過や出来事に着目する学習、人物像の変化を捉える学習を行っている。

生徒の文学的文章についての捉えを把握するために、事前のアンケート調査(実践学 対象)を行った結果、以下のことがわかった。問1:「文学的文章を読むことが好きですか。」について「好き」「どちらかといえば好き」「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の四段階自己評定で調査をしたところ、平均が〇〇と高く、「文章から想像することが楽しい」「登場人物を客観的に見たり、登場人物になりきったりするのが楽しい」などの理由を挙げている。しかしその一方で、「心情を読み取るのが苦手」「細かな部分を読み取るのは苦手」と回答している生徒も見られた。また、問2:「文学的文章を読むときに、どのようなことに気をつけて読んでいますか」について、登場人物に関することを挙げた生徒が多数いる反面、表現の工夫や効果について気をつけている生徒は少数であった。問3:「文学的文章を読むときに難しいと感じることはどのようなことですか。」について、「長い文章を読むこと」「漢字の読み方や言葉の意味」「話の内容を理解すること」「登場人物の人物像を考えること」「登場人物の心情やその変化を読み取ること」「場面や構成について考えること」「表現の工夫や効果について考えること」「作者の考え方やものの見方をとらえること」「自分の感想をもつこと」「特に難しいことはない」の10項目の中から最も多くの生徒が選択したのが「作者の考え方やものの見方をとらえること」であり、その数は〇名(〇%)にも上った。また、次いで多かったのが「登場人物の心情やその変化を読み取ること」で〇人(〇%)であった。

以上から明らかになった本学級の生徒の傾向は次の2点である。

- ① 文学的文章を読むことは好きだと感じながらも、作者のものの見方や考え方をとらえることができていない。(問1, 問2から)
  - ② 登場人物についての読み取りの重要性は感じているが、苦手意識がある。(問2, 問3から)
- そこで本単元の指導に当たっては、人物の描写や表現の工夫について学ぶことで、作者の意図についての理解を深められることを実感させたい。

そのためにまず、「故郷」を通読し、単元の学習課題を把握させる。ここでは、キャストインタビューの具体例を紹介し、登場人物についての読み取りを中心として学習を進めていくことを伝えることで、生徒が視点をもって作品を読むことができるようにする。次に、登場人物の設定の仕方から、作者の意図を捉えさせる。ここでは、作中の描写から登場人物についての理解を図ったのち、作者の別の作品「小さな出来事」や、歴史的社会的背景に関する資料を示しながら、ワールド・カフェ方式で話し合わせることで、作者の意図に迫ることができるようにする。最後に、キャストインタビューの資料を作成させた後、単元のまとめとして、学習の振り返りを書かせる。ここでは、作品の一場面を取り上げて実際に朗読させることで、より具体的な言葉で質問への答えを記述することができるようにする。また、振り返りを書かせる際には、初発の感想と見比べながら記述させることで、本単元での学びを実感することができるようにする。

### 3 目標

- 【知識・技能】歴史的背景などに注意して文章を読むことを通して、作品の世界をより深く、広く理解することができることを知る。
- 【思考・判断・表現】「故郷」を読んで、登場人物の人物像や設定の仕方を捉え、理解を深めることができる。
- 【思考・判断・表現】「故郷」を読んで、作者の意図を捉え、自分の意見を表現することができる。
- 【主体的に学習に取り組む態度】絶えず自己の学習状況を把握することに努めながら、キャストインタビューに答える学習に進んで取り組もうとする。

### 4 計画（6時間）

第一次 「故郷」を通読し、単元の学習課題を把握する。——1時間

（1）作品を読んで初発の感想を書き、学習の見通しを持つ。——1時間

第二次 登場人物の設定の仕方に表れている作者の意図を捉える。——3時間

（1）作中の描写から登場人物の人物像を捉える。——1時間

（2）「小さな出来事」を読み、登場人物の人物像についてまとめる。——1時間

（3）「故郷」や「小さな出来事」、当時の歴史的社会的背景に関する資料をもとに、作者の意図についてワールド・カフェ方式で話し合う。——1時間（本時）

第三次 キャストインタビューの資料を作成し、学習を振り返る。——2時間

（1）キャストインタビューの資料を作成する。——1時間

（2）初発の感想と見比べ自身が得た学びについて振り返り、まとめる。——1時間

### 5 本時

（1）日時 令和元年〇月〇日（〇）第〇校時 第二次の3 3年〇組教室

（2）主眼

- 「小さな出来事」と歴史的社会的背景に関する資料をもとにワールド・カフェ方式で話し合う活動を通して、登場人物の設定における作者の意図について説明することができる。

（3）準備

①歴史的社会的背景に関する資料 ②模造紙 ③マジック ④BGM ⑤PC

(4) 過程

学習活動・内容	指導上の留意点 ◇評価	形態	配時	
1 前時までに学習した内容を振り返り、発表する。 ・「故郷」に登場する「ヤンおばさん」「ルントウ」の人物像 ・「小さな出来事」に登場する人物の人物像 2 本時のめあてを確認する。	○本時学習において、これまでの学習成果を活用しやすくさせるために、前時までの学習活動・内容を、学習プリント及び自己評価表から想起させる。	一斉	5	
[めあて] 「ヤンおばさん」「ルントウ」を登場させた魯迅の意図について考えよう。		個	5	
3 「ヤンおばさん」と「ルントウ」を登場させる作者の意図についてワールド・カフェ形式で話し合う。 (1) これまでの学習をもとに話し合う。 (2) 歴史的社会的背景に関する資料をもとに話し合う。 (3) これまでの話し合いで得た意見をもとに、再度話し合う。	○見通しのある学習にさせるために、話し合いの流れを説明する。 ○よりたくさんの意見に触れさせると同時に、読みを深めさせるために、班のメンバーを入れ替えながら話し合わせる。	小集団	25	
<b>【予想される生徒の意見】</b> (1) 同じ時代に作者が書いた「小さな出来事」には、人物を盗む人物が登場した。人物像は「ヤンおばさん」や「ルントウ」と違うけれど、当時の人々に対する作者の見方が現れていると思う。 (2) 「ルントウ」と「ヤンおばさん」が理想の姿とかけはなれてしまった背景には、当時の中国の厳しい現実があったのかもしれない。作者は世の中のことを嘆いていたのかも。		ラウンド1：4人班（テーブル）で話し合う。 ラウンド2：各班に1人（ホスト）を残し、残りのメンバーは他の班へ移動する。 ラウンド3：もとの班に戻り、獲得した意見・情報を伝え合いながら再度話し合う。		
4 話し合いの振り返りを書く。 5 全体で交流する。	○話し合いに変化や深まりをもたらすために、ラウンド2で歴史的社会的背景に関する資料を配る。 ○話し合いが円滑に行われるように、資料を配った直後に目を通す時間を設ける。 ○テーブルごとに話し合いの流れや深まりが確認できるように、模造紙とマジックの活用を促す。 ○より積極的に話し合いに参加したり、模造紙への書き込みを行ったりすることができるように、全体交流で発表する為の模造紙ではないことを伝えておく。	個	5	
6 本時のまとめを行い、次時の予告を聞く。	◇作者の意図について、本文の描写や歴史的社会的背景について言及しながら説明できたか。 ○学びの流れを自覚・共有することができるように、どのラウンドでの話し合いによって得た考え・意見なのかを明示させる。	全体	5	
[まとめ例] 貧困や封建制度の中で苦しむ民衆の姿を描くことで、当時の中国に問題提起をしたかった。		○本時の学習を「キャストインタビューの資料作成」につなげさせるために、役者は「ヤンおばさん」と「ルントウ」の配役について「どのように捉え、どのように演じるか」を問いかけて、次時の学習へ向かわせる。	個	5